

孤独に満てる

(昭和四十四年寮歌)

山崎芳行君 作歌
服部泰明君 作曲

一

孤独に満てる我が青春に
何時しか遅春も訪ずれぬ
まだ萌えやらぬ芝生の上に
一片舞い散る桜花
朝露に濡れ新たな寮友と
盃かわす楽しさよ
嗚呼我一人にあらずして
我が青春は寮友とあり

二

孤独に満てる旅人一人
理想を求めて蝦夷へ来ぬ
その彼の人の心知れりや
原始の森に鳴く郭公
寮友と別れて一月経ちぬ
今日懐しき便りあり
嗚呼我一人にあらずして
我が青春は寮友とあり

三

孤独に満てる我が自治寮に
早くも秋の気配あり
夕日に映ゆるポプラの並木
憂愁風に枯れ葉飛ぶ
再び会いぬ寮友と連れ立ち
真理の国を彷徨いぬ
嗚呼我一人にあらずして
我が青春は寮友とあり

四

孤独に満てる我が同胞に
厳冬正に伸し掛り
深雪に埋むる原始の森へ
月光冴かに突差しぬ
冷酒を飲み野心語れば
いとど深まる友情かな
嗚呼我一人にあらずして
我が青春は寮友とあり